コロナ渦における日本国内のマイクロツーリズムの実態把握

馬場　優大[1]・藤生　慎[2]・森崎　裕磨[3]

[1]学生会員　金沢大学大学院　自然科学研究科地球社会基盤学専攻（〒920-1192 石川県金沢市角間町）
E-mail: asmr4ub2ttt@stu.kanazawa-u.ac.jp

[2]正会員　金沢大学　准教授　融合研究域融合科学系（〒920-1192 石川県金沢市角間町）
E-mail: fujiu@se.kanazawa-u.ac.jp (Corresponding Author)

[3]正会員　金沢大学　助教　融合研究域融合科学系（〒920-1192 石川県金沢市角間町）
E-mail: morisaki@staff.kanazawa-u.ac.jp

2020 年に新型コロナウイルス感染症が流行し，我が国における国内旅行者数は激減した．こうした現状で，自宅から 1,2 時間程度で移動できる観光形態であるマイクロツーリズムが注目されていた．マイクロツーリズムは，感染対策や地域の魅力の再発見と地域経済への貢献が期待されている．実際，コロナ渦におけるマイクロツーリズムの実態把握に関する研究が数多く行われている．一方，現在では新型コロナウイルス感染症による規制が緩和され，我が国における旅行者数が増加傾向にあり，新型コロナウイルス流行以前に回復しつつある．そこで本研究では，観光客の目的地，居住地，個人属性といった情報が掲載されている旅行情報サイトの Tripadvisor を利用し，日本国内の新型コロナウイルス感染症の流行前後におけるマイクロツーリズムの定量的な実態把握を行った．

Key Words: *micro-tourism, review-Data, COVID-19*

1. 本研究の背景と目的

(1) 本研究の背景

我が国において，人口減少と少子高齢化が進行する地方では，地域の機能をどのように維持し，活性化させていくかが課題となっている [1]．こうした中，観光産業はこれらの問題を解決する施策の 1 つとして注目されており [2]，現在，地方自治体が積極的に取り組んでいる．しかし，昨今の新型コロナウイルス感染症の世界的な流行により，人々の移動が制限され，我が国の地方の観光産業にも悪影響が及んだ．こうした遠方や海外への旅行が制限された状況の中，3 蜜を避けながら自宅から 1~2 時間ほどの範囲内で観光・周遊を行う，マイクロツーリズムと呼ばれる新たな旅行形態が星野リゾートにより提唱された [3]．このマイクロツーリズムは旅行の長距離移動に伴う感染拡大のリスクが少なく，地域の観光需要にもつながり，地域経済にも発展するといったメリットがある．さらに，地元の魅力の再発見や地域のとのつながりが強まることで，地元への愛着が高まり，都市部への人口流出の抑制や U ターン，J ターンを行う人々の増加など地方創生への貢献が期待される．現在は 2022 年 10 月 11 日の我が国への入国者数制限の撤廃等の水際対策の大幅な緩和 [4]や，2023 年 3 月 13 日に施行された感染症対策であるマスク着用義務の廃止 [5]，2023 年 5 月 8 日の新型コロナウイルス感染症が季節性インフルエンザと同類の 5 類に分類された [6]など，感染防止策の緩和や撤廃が行われ，人々の移動制限が精神的，制度的にも緩和された．こうした社会的背景があり，2020 年初頭からのコロナ渦よって低迷していた日本人の国内旅行消費額が，2022 年 10 月以降からコロナ渦以前の 2019 年と同程度に戻る [7]など，我が国の観光産業が回復の兆しを見せている．

こうした新型コロナウイルス感染症拡大防止策の緩和によって我が国の観光産業が回復しつつある中でも，マイクロツーリズムは地域の観光需要，地域経済の発展に繋がる点，都市部への人口流出の抑制等の衰退する地方にとってのメリットが多数存在する．このようにマイクロツーリズムは我が国の地域の機能を維持し，活性化させるために我が国の人々の旅行形態として定着させることが重要であると考える．

(2) 本研究の目的

本研究では，新たな旅行形態として提唱されたマイクロツーリズムがコロナ渦において，実際にどの程度行われていたのか，観光スポットに焦点をあて，人流分析ツールを用いて実態を調査する．さらにコロナ渦以前と新型コロナウイルス感染症の水際対策の大幅な緩和が行われた 2022 年 10 月以降においても同様に実態を調査し，比較することでマイクロツーリズムのコロナ渦による普及度合と人々の旅行形態としての定着度合いの定量的な把握を行うことを目的とする．

2. 既往研究の整理と本研究の位置付け

本章では，マイクロツーリズムの実態把握を行っている既往研究とそれらを踏まえた上での本研究の位置付けを述べる．

(1) 既往研究の整理

大江ら [8]は，コロナ禍の生活様式における都市住民を需要層としたマイクロツーリズムの方向性と潜在的需要層に関して，大都市住民を対象としたアンケート調査により明らかにしている．特に農村ツーリズムに焦点を当てた調査では，旅行目的に「地域の再発見につながる近隣の旅行先」が挙げられるなど，新しい生活様式における旅行の目的や価値を明らかにし，e ホスピタリティと対面ホスピタリティの融合に重要性があると考察している．

山口ら [9]は，コロナ禍における東京都のマイクロツーリズムの観光動機の特徴整理と，動機と観光要素の評価，満足度との関わりをアンケート調査により明らかにしている．特に観光動機に関しては，観光の有無や満足度との関わり，旅行満足度に関わる要素の抽出や，クラスター分析による対象者の群分け等により，その特徴や実態を明らかにするとともに，マイクロツーリズムが多様な観光動機を持つ者を満足させる観光となるための要件の必要性を示している．

佐野ら [10]は，20～30 歳代の若者を対象としたアンケート調査により，コロナ禍のマイクロツーリズムに実態と地域愛着，観光の真剣（シリアス）さとの関わりについて考察している．本研究では，マイクロツーリズムにおける観光客の質を真剣さの観点から定量化しているほか，地域愛着や関係人口との関係性を定量的に明らかにしている．また，人口減少地域における観光客の誘致においては，観光客の観光への真剣な態度がポイントになることを示唆している．

(2) 既往研究を踏まえた上での本研究の位置付け

前節で述べた既往研究ではアンケート調査を行うことでマイクロツーリズムの方向性や潜在的需要層，観光動機などの実態把握を行っている．しかし本研究ではアンケート調査を行わず人流分析ツールを用いたマクロな視点でのマイクロツーリズムの定量的な実態把握を行う．また，コロナ渦前後におけるマイクロツーリズムの実態を把握し比較することで，コロナ渦におけるマイクロツーリズムの普及度合やコロナ渦後での定着度合を定量的に算出している．以上の 2 点が既往研究にはない本研究の新規性である．

3. マイクロツーリズムの実態の把握手法

本研究ではマイクロツーリズムの実態の定量的な把握に旅行情報サイトの 1 つである Tripadvisor[10]と位置情報・人流分析 GIS KDDI Location Analyzer （以下 KLA と呼ぶ）を用いる [11].

(1) 利用する旅行情報サイトの概要と観光スポットの選定

本研究で利用する Tripadovisor は世界最大規模の旅行情報サイトであり，旅行に関する情報だけでなく，ホテル，レストランや観光スポットなどの写真，口コミ等が投稿されている．月間平均 4 億 6300 万人のユニークユーザーがおり，レストラン，観光スポットに対して 8 億 8400 万件以上の口コミ情報が掲載されている [12]．この Tripadvisor を用いて，観光スポットの内，分析を行うことが可能な一定以上の訪問者数がいることが考えられる，日本人の口コミが 100 件以上存在する観光スポット 100 箇所を選定した．選定した日本全国に存在する観光スポット名を**表-1** に示す．

(2) KLA の概要と観光スポットの来訪者居住地分析

本研究において，マイクロツーリズムの実態把握に用いる KLA は Web ブラウザ上で来訪者の推移やその詳細を取得・分析できるツールであり，KLA の来訪者居住地分析を行うことで使用者が任意に指定した期間内に，指定した観光スポットへの来訪者数が来訪者の居住地別に把握を行うことが可能となる．さらにその居住地と観光スポットの距離も把握可能である．KLA の来訪者居住地分析によって得られるデータの内，本研究で使用するデータ項目を**表-2** に示す．本研究ではこの KLA を用いて前節で選定した観光スポットにおけるコロナ渦以前，コロナ渦，新型コロナウイルス感染症の水際対策の大幅な緩和が行われた 2022 年 10 月以降の 3 期間において，来訪者居住地分析を行った．なお，季節による来訪者数の偏りを無くすため，各期間はそれぞれ 1 年でデータの取得が可能な，2018 年 10 月 8 日～2019 年 10 月 7 日，2020

表-1　Tripadvisor を利用し選定した観光スポット

Tripadvisorを利用し選定した観光スポット			
秋芳洞	由志園	宇佐神宮	伏見稲荷神社
黒部ダム	瑠璃光寺五重塔	広島平和記念資料館	仙台城跡
鳥取砂丘	熊野本宮大社	平等院	亀老山展望公園
鵜戸神宮	滝野すずらん丘陵公園	姫路城	京都侍忍者ミュージアム
高知県立牧野植物園	湯滝	奥入瀬渓流	京都鉄道博物館
青蓮院	清水寺	奈良県猿沢ビジターセンター＆イン	両国国技館
高野山 奥之院	法隆寺	大河内山荘庭園	上野恩賜公園
金剛峯寺	浅草寺	大観峰	久保田一竹美術館
金閣寺	横浜ランドマークタワー	天安河原	三十三間堂
長崎原爆資料館	桂離宮	大正池	三峯神社
長谷寺	沖縄美ら海水族館	大本山 永平寺	三千院
那智の滝	松本城	大塚国際美術館	ミホ ミュージアム
豊島美術館	松山城	大原美術館	トヨタ産業技術記念館
蔵王温泉	東大寺	城崎温泉	ニセコ東急グランヒラフ
縮景園	栗林公園	善光寺	ピナイサーナの滝
草津温泉湯畑	書寫山圓教寺	大内宿	オキちゃん劇場（イルカショー）
立山黒部アルペンルート	旭岳	厳島神社	ひめゆり平和祈念資料館
神戸布引ハーフ園	東南植物楽園	唐招提寺	コンドイ浜
神威岬	新倉富士浅間神社	千畳敷カール	あしかがフラワーパーク
福井県立恐竜博物館	新城海岸	原爆ドーム	MAZDA Zoom-Zoom スタジアム 広島
知床五胡	日光東照宮	修学院離宮	羽黒山
知覧特攻平和会館	彫刻の森美術館	兼六園	鞍馬山
白谷雲水峡	忍者武器ミュージアム	出雲大社	明治神宮
白米千枚田	弥山	伊勢神宮	根津美術館
白川郷	成田山 新勝寺	伊良部大橋	志賀高原スキーエリア

表-2　来訪者居住地分析によって得られた KLA データのデータ項目

データ項目
居住地（市町村）
居住地別の来訪者数
居住地（市町村）と観光スポットの距離

年 10 月 8 月～2021 年 10 月 7 日，2022 年 10 月 8 日～2023 年 10 月 7 日とした．

(3) 来訪者居住地分析によって抽出したデータを用いたマイクロツーリズムの実態把握

前節の KLA を用いた分析によって，1 箇所の観光スポットにつき 2018 年 10 月 8 日～2019 年 10 月 7 日，2020 年 10 月 8 月～2021 年 10 月 7 日，2022 年 10 月 8 日～2023 年 10 月 7 日の 3 期間分のデータを取得し，100 箇所の観光スポットの計 300 のデータを取得した．このデータを用いて，我が国におけるマイクロツーリズムの実態把握を行った．マイクロツーリズムは自宅から 1～2 時間圏内の地元または近隣への宿泊観光や日帰り観光であることと，国土交通省が定める一般道路の平均旅行速度が 34km/h であることから，居住地から半径 68km 圏内の観光スポットへの来訪を本研究では，地元または近隣からの来訪，またはマイクロツーリズムと定義する．まず，先述した期間における観光スポットへの全来訪者数に占める，来訪がマイクロツーリズムであった人数の割合を算出する．この値を MT 値と定義する．次にコロナ渦の 1 年間 2020 年 10 月 8 月～2021 年 10 月 7 日における，選定した 100 箇所の観光スポットの MT 値の平均値を算出する．同様にコロナ渦前の 1 年間 2018 年 10 月 8 日～2019 年 10 月 7 日と新型コロナウイルス感染症の水際対策が大幅に緩和がされた 2022 年 10 月以降の 1 年間 2022 年 10 月 8 日～2023 年 10 月 7 日においても同様に選定した 100 箇所の観光スポットの MT 値の平均値を算出する．同様に，来訪者の居住地と観光スポットの距離の平均値と来訪者の内，マイクロツーリズムによる来訪者の居住地からの距離の平均値を算出する．この 3 期間の来訪者の居住地からの距離の平均値と MT 値の平均値を比較することで，コロナ渦におけるマイクロツーリズムの実態と人々の旅行形態としての定着度合いの定量的な把握を行う．

4. コロナ渦におけるマイクロツーリズムの定的な実態把握の分析結果

(1) 観光スポットの来訪者に占める近隣または地元住民の割合

3 章で述べた手法で算出した，2020 年 10 月 8 日～2021 年 10 月 7 日，2018 年 10 月 8 日～2019 年 10 月 7 日，2020 年 10 月 8 日～2021 年 10 月 7 日の 3 期間のそれぞれの MT 値の平均値を**図-1** に示す．**図-1** からコロナ渦の 2020 年 10 月 8 日～2021 年 10 月 7 日においては MT 値が約 0.586 と 0.5 を上回る結果となり，コロナ渦において選定した 100 箇所の観光スポットの来訪者の内，半数以上がマイクロツーリズムを行っていた．また，2018 年 10 月 8 日～2019 年 10 月 7 日においては約 0.455 であり，コロナ渦前と比較し，コロナ渦ではマイクロツーリズムを行う来訪者が増加していた．また，新型コロナウイルス感染症の水際対策が大幅に緩和がされた 2022 年 10 月以降の 2022 年 10 月 8 日～2023 年 10 月 7 日においては 0.472 とコ

ロナ渦から減少しているが，コロナ以前の 2018 年 10 月 8 日～2019 年 10 月 7 日と比較して高い値となった．

(2) 観光スポットへの訪問者数の平均値

3 章で述べた手法で算出した，2020 年 10 月 8 日～2021 年 10 月 7 日，2018 年 10 月 8 日～2019 年 10 月 7 日，2020 年 10 月 8 日～2021 年 10 月 7 日の 3 期間における，選定した 100 箇所の観光スポットへの来訪者数の平均値を**図-2** に示す．コロナ前の 2018 年 10 月 8 日～2019 年 10 月 7 日の 1 年間と比較し，コロナ渦の 2020 年 10 月 8 日～2021 年 10 月 7 日の 1 年間では，来訪者数，近隣または地元からの来訪者数が 994,452 名から 517,539 名，562,695 名から 371,021 名に減少している．2022 年 10 月 8 日～2023 年 10 月 7 日の 1 年間はそれぞれ 697,967 名，411,493 名に増加しており，近隣または地元からの来訪者数の平均値は，全体の来訪者数の平均値と比較して変化が小さい結果となった．

(3) 観光スポットと来訪者の居住地の距離

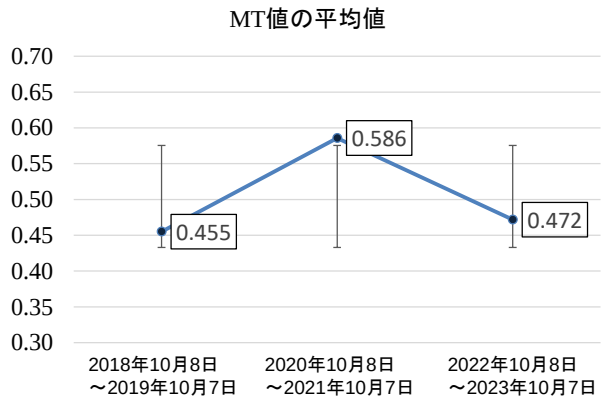


図-1 MT 値の時期別推移

3 節で述べた手法で算出した，2020 年 10 月 8 日～2021 年 10 月 7 日，2018 年 10 月 8 日～2019 年 10 月 7 日，2020 年 10 月 8 日～2021 年 10 月 7 日の 3 期間における観光スポットと来訪者の居住地との距離の平均値を**図-3** に示す．**図-3** から観光スポットと来訪者の居住地の距離の平均値は，来訪者全体ではコロナ渦ではコロナ渦前から約 257km から 183km へ減少し，新型コロナウイルス感染症の水際対策が大幅に緩和された 2022 年 10 月以降の 2022 年 10 月 8 日～2023 年 10 月 7 日の一年間では約 250km と増加した．一方で来訪者に占める近隣または地元の住民の居住地と観光スポットの距離の平均値は 3 期間において変化が約 1km のみ見受けられたが来訪者全体と比較して変化が小さいといった結果となった．

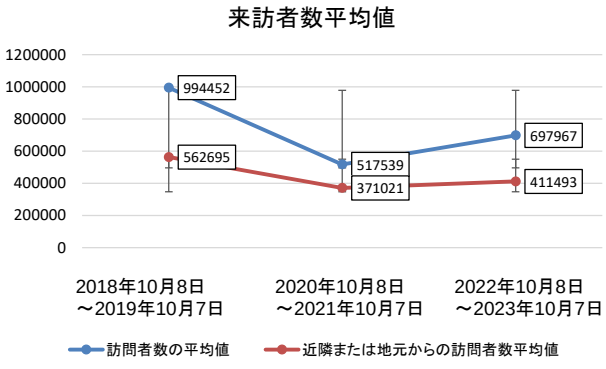


図-2 選定した観光スポットの来訪者数の時期別推移

5 まとめと今後の課題

本研究では，コロナ渦における日本国内のマイクロツーリズムを旅行情報サイトの Tripadvisor と人流分析ツールの KLA を用いて定量的な実態把握を行った．初めに Tripadvisor を用いて日本国内の観光スポットを 100 箇所選定した．その後 KLA を用いて選定した観光スポットにおいて来訪者居住地分析を行い，コロナ渦前の 2018 年 10 月 8 日～2019 年 10 月 7 日の 1 年間，コロナ渦の 2020 年 10 月 8 日～2021 年 10 月 7 日の 1 年間，新型コロナウイルス感染症の水際対策が大幅に緩和され，日本人の国内旅行消費額がコロナ渦以前まで回復を見せた 2022 年 10 月以降の 2022 年 10 月 8 日～2023 年 10 月 7 日の 1 年間，計 3 期間の居住地別来訪者数，居住地と観光スポットの距離を抽出した．さらに抽出したデータを用いて観光スポットの来訪者に占める近隣または地元住民の割合，観光スポットへの来訪者数の平均値，観光スポットと来訪者の居住地の距離の平均値を 3 期間ごとにそれぞれ算出し比較した．その結果，観光スポットへの来訪者に占める近隣または地元住民の割合は，コロナ渦の 2020 年 10 月 8 日～2021 年 10 月 7 日の 1 年間においては 0.586 であり，これは選定した 100 箇所の観光スポットへの来訪者の内，半数以上がマイクロツーリズムを行っていたと

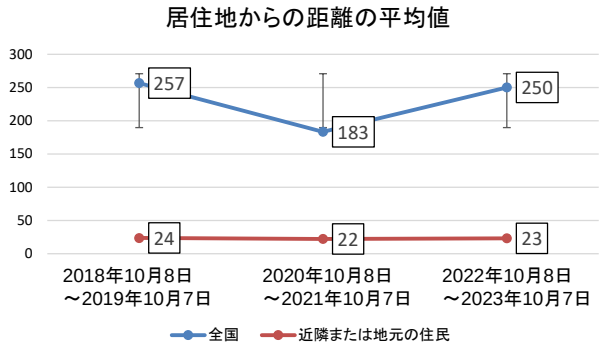


図-3 来訪者の居住地からの距離平均

いった．また，コロナ渦以前の 2018 年 10 月 8 日～2019 年 10 月 7 日の MT 値の 0.455 から増加しており，2022 年 10 月 8 日～2023 年 10 月 8 日においては MT 値の 0.472 と減少しているものの，コロナ渦前と比較して高い値を示している．これは新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防止する多くの制度が緩和または撤廃されたことによって人々が遠出の国内旅行を行うようになったが，コロナ渦におけるマイクロツーリズムが増加の影響がある可能性が考えられる．しかし，新型コロナウイルス感染症の水際対策の大幅な緩和から 1 年しか経過していないため，マイクロツーリズムが人々の旅行形態として定着しているとは言い難い．したがって今後の課題として，KLA を用いたマイクロツーリズムの実態把握を継続的に行っていくとともに，マイクロツーリズムの重要性が高い地方の観光スポットに着目した同様の分析を今後行っていく必要があると考える．

REFERENCES

1) 高齢化の現状と将来像｜令和 4 年版高齢社会白書（全体版）-内閣府：https://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2022/html/zenbun/s1_1_1.html，2023 年 10 月 12 日閲覧.
2) 笠木 秀樹：地域資源と観光 観光振興による地方創生,兵庫教育大学地理学研究室研究報告 2019 年,24 巻 p.53-66.
3) 星野リゾートの「マイクロツーリズム」近所旅行のススメ：https://www.hoshinoresorts.com/sp/microtourism/，2023 年 10 月 12 日閲覧
4) 水際対策 10 月 11 日から大幅緩和 入国上限撤廃 個人旅行も解禁｜NHK：https://www3.nhk.or.jp/news/special/coronavirus/restrictions/detail/detail_94.html, 2023 年 10 月 12 日閲覧.
5) マスクの着用について｜厚生労働省 ：https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kansentai-saku_00001.html,
2023 年 10 月 12 日閲覧
6) 新型コロナウイルス感染症の５類感染症移行後の対応について｜厚生労働省 ：https://www.mhlw.go.jp/stf/corona5rui.html,
2023 年 10 月 12 日閲覧.
7) 旅行・観光消費動向調査|統計情報|統計情報・白書|観光庁：https://www.mlit.go.jp/kankocho/siryou/toukei/shouhidoukou.html,
2023 年 10 月 12 日閲覧.
8) 大江靖雄，「コロナ禍がもたらした新たな日常における農村観光の展開方向をさぐる ―マイクロ・ツーリズムとワーケーションへの意識調査から―，総合観光研究 2022 年 20 巻 p. 1-9
9) 山口一美，長田悠希，小口孝司，「東京都におけるマイクロツーリズムの観光動機と観光地選択との関連」, 日本観光研究学会全国大会学術論文集（2021 年 12 月）pp. 117－120
10) 佐野 浩祥，「マイクロツーリズムの実態と地域愛着との関係―シリアスな観光に着目した Web アンケート調査をもとに―」日本観光研究学会機関誌 2021 年 33 巻 3 号 p. 11-18
11) 位置情報・人流分析 GIS　KDDI Location Analyzer｜技研商事インターナショナル (giken.co.jp) ：https://www.giken.co.jp/service/kla/,，2023 年 10 月 12 日閲覧
12) 「トリップアドバイザー」について知る|日本最大級のホテル旅館情報サイト HOTELIER|ホテル旅館サービス・商品比較 https://hotelier.jp/hotel_comp/tripadvisor,
2023 年 10 月 12 日閲覧.

(Received October 13, 2023)

ANALYSIS OF MICROTOURISM DURING COVID-19 PANDEMIC

Yuta BABA, Makoto FUJIU and Yuma MORISAKI

The number of domestic travelers in Japan declined sharply after the outbreak of a new type of coronavirus infection in 2020. Under these circumstances, microtourism, a form of tourism that can be accomplished within an hour or two of travel from home, has been attracting attention. Microtourism is expected to contribute to infection control, rediscovery of local attractions, and local economies. In fact, many studies have been conducted to understand the actual situation of microtourism in the coronavirus. Meanwhile, the number of travelers in Japan is on the rise due to the relaxation of restrictions imposed by the new coronavirus infection, and is recovering to the level before the new coronavirus epidemic. In this study, using Tripadvisor, a travel information website that provides information on tourist destinations, places of residence, and personal attributes, quantitative data on microtourism in Japan before and after the outbreak of the novel coronavirus infection were obtained.